

## 65 番の歌 進歩し続けよう

# 若い兄弟たち、マルコとテモテの手本に倣ってください

「マルコを連れてきてください。私の奉仕を支えてくれるからです」。テモテ第二 4:11

ポイント：仲間のために尽くしたマルコとテモテに、若い兄弟たちはどのように倣えるでしょうか。

1-2. マルコとテモテが、新しい奉仕にチャレンジするのをためらってもおかしくなかったのはどうしてですか。

エホバへの奉仕に打ち込む若い兄弟たちがたくさんいるのは、本当にうれしいことです。あなたはエホバや会衆の仲間のためにもっとできることがないだろうかと思っていますか。そういうやる気があるのはとても立派です。（詩 110:3 あなたが軍勢を指揮する（\*あなたの軍隊が集まる）日に、あなたの民は喜んで自分を差し出す。あなたが率いる若者たちは神聖さで光り輝く。夜明けに豊かに生じる露のよう。）でも、そう願ってはいても不安になるかもしれません。これまでやったことのない奉仕にチャレンジするのは気が引けるでしょうか。何かの仕事をお願いされて、自分にはできないと思ったことがありますか。そう感じたことがあるのはあなただけではありません。

2 マルコとテモテも、やったことのない奉仕について不安に思ったり、自分にはできないと感じたりしたことがあったはずです。でも、エホバやほかの人のために一生懸命働きました。マルコは、パウロとバルナバから 1 回目の宣教旅行に誘われた時、おそらく母親と快適な家で暮らしていました。（使徒 12:12, 13 そう悟ったペテロは、マルコと呼ばれるヨハネの母親マリアの家に行つた。そこでは、かなり大勢の人が集まって祈っていた。 13 ペテロが門の戸をたたくと、ロダという召し使いの女性が応対に出てきたが、25 バルナバとサウロは、エルサレムで救援の仕事を十分に果たしてから帰途に就き、マルコとも呼ばれるヨハネを連れていった。）マルコは慣れ親しんだ場所を離れて、まずアンティオキアに行きました。その後、パウロとバルナバと旅をして、さらに遠くまで行きました。（使徒 13:1-5 さて、アンティオキアの会衆には預言者や教える人たちがいた。バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、キレネのルキオ、地域支配者ヘロデと一緒に教育を受けたマナエン、サウロである。 2 これらの人々がエホバに仕え、断食をしていると、神が聖なる力によってこう言った。「バルナバとサウロを私のために取り分けなさい。私はある活動を行わせるために 2 人を選びました」。 3 それで断食をして祈ってから、2 人に手を置き、送り出した。 4 この人々は聖なる力によって送り出されてセレウキアに行き、そこから船でキプロス島に向かった。 5 そしてサラミスに着くと、ユダヤ人の会堂で神の言葉を広め始めた。付き添い（\*助手）としてヨハネを連れていた。）テモテも、パウロから宣教旅行に誘われた時、両親と一緒に暮らしていたようです。若いテモテが、自分はやっていいけるだろうかと不安に思ったとしても不思議ではありません。（コリント第一 16:10, 11 テモテがそちらに到着したら、不安なく過ごせるようにしてあげてください。テモテは私と同じくエホバの活動を行っているからです。）

11 誰もテモテを見下してはなりません。無事に私の所に来られるようにテモテを見送ってください。私は兄弟たちと共にテモテを待っています、テモテ第一 4:12あなたが若いからといって、誰にも見下されないようにしなさい。かえって、言葉や振る舞い、また愛、信仰、清さ(\*貞潔さ)の点で、忠実な人たちの手本となってください。と比較。) でも、パウロと奉仕することにしたので、たくさんの素晴らしい経験ができました。(使徒 16:3-5 パウロは、テモテを同行させたいとの願いを述べ、その地域のユダヤ人のために彼に割礼を施した。皆は彼の父親がギリシャ人だと知っていたのである。4一行は幾つもの町を通って、エルサレムにいる使徒や長老たちが下した決定を守るように伝えた。5こうして、会衆は信仰を強められ、日々、人数が増えていった。)

3. (ア) パウロはマルコとテモテのことをどう思っていましたか。(テモテ第二 4:6, 9, 11) (挿絵も参照。) (イ) この記事ではどんなことを考えますか。

3 マルコもテモテも、若い頃からよく学び、重い責任を立派に果たしました。パウロはそんな2人と一緒に働けたことをとてもうれしく感じ、自分の死が近いことを悟った時、2人にそばにいてほしいと願うほどでした。(テモテ第二 4:6 私はすでに飲み物の捧げ物のように注ぎ出されており、解放される時が迫っています、9できるだけ早く私の所に来られるように努力してください、11私と一緒にいるのはルカだけです。マルコを連れてきてください。私の奉仕を支えてくれるからです。を読む。) マルコとテモテがそれほどパウロに愛されたのはどうしてでしょうか。若い兄弟たちは2人にどのように倣えるでしょうか。パウロの親心のこもったアドバイスから何を学べますか。



若いマルコとテモテは任されたことに一生懸命取り組み、パウロから愛された。(3節を参照。)\*写真や挿絵: マルコがパウロとバルナバの宣教旅行に同行し、身の回りの世話をしている。テモテが会衆を訪問し、兄弟たちを力づけている。

## マルコはエホバと人のために進んで働いた

4-5. マルコが進んで働いたといえるのはどうしてですか。

4 誰かのために進んで働く人は、相手に尽くし、そうするのが大変なときも諦めません。マルコはまさにそういう人でした。パウロが2回目の宣教旅行に連れていってくれなかつた時、きっと傷つき、落ち込んだことでしょう。(使徒 15:37, 38 バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネを連れしていくことに決めていた。38しかしパウロは、パンフリアでマルコが一緒に行動するのをやめてしまったことがあるので、彼を連れていくことに賛成できなかつた。) それでもマルコは、兄弟姉妹のために働くのをやめませんでした。

5 その後、マルコはいとこのバルナバと一緒に奉仕しました。11年ほど後には、ローマで囚人になっていたパウロを支えました。（ファイル 23, 24キリスト・イエスと結ばれて私と一緒に捕らわれているエパフラスが、あなたによろしくと言っています。24私と共に働く仲間のマルコ、アリストルコ、デマス、ルカもよろしくと言っています。）パウロはそのサポートをとてもありがとうございます（コロ 4:10, 11私と一緒に捕らわれているアリストルコが皆さんによろしくと言っています。バルナバのいとこマルコもよろしくと言っています。（皆さんは、もしマルコがそちらに行ったら歓迎するようにとの指示を受けています。）11ユストと呼ばれるイエスもよろしくと言っています。これらは割札を受けている人たちです。この人たちだけが神の王国のために私と共に働いており、私をとても慰めて(\*力づけ、助けて)くれています。）

6. 経験を積んだクリスチャンとの交流から、マルコはどんな影響を受けましたか。（脚注を参照。）

6 マルコはローマでパウロといらか時間を過ごした後、バビロンで使徒ペテロと奉仕しました。ペテロが「私が愛するマルコ」と呼んでいることから、2人の強い絆が読み取れます。（ペテー 5:13バビロンにいる、皆さんと同じように選ばれた女性(会衆のことかもしれない)が、よろしくと言っています。私が愛する(d\*私の子)マルコもそうしています。）マルコは、おそらくペテロからイエスの生き方や伝道について詳しく話を聞き、それを福音書にまとめたのでしょうか。このようにマルコは、経験を積んだ立派なクリスチャンと時間を過ごすことから大切なことを学びました。\*感情をストレートに表現する人だったペテロは、いろいろな場面でのイエスの気持ちや反応についてマルコに生き生きと話したことでしょう。マルコの福音書にイエスの感情や行動がよく描かれているのは、そのためと思われます。（マル 3:5イエスは憤りを覚えながら見回し、人々の心が無感覚なのを深く悲しんで、男性に言った。「手を伸ばしなさい」。男性がそうすると、手は治った。:7:34そして、天を見上げて深く息を吐き、「エファタ」、つまり「開かれよ」と言った。:8:12イエスは深く嘆いて言った。「なぜこの世代はしるしを求めるのですか。はっきり言いますが、この世代にしるしが与えられることはありません」。）

7. 勝佑兄弟はどのようにマルコに倣いましたか。（写真も参照。）

7 マルコはエホバへの奉仕に打ち込み、兄弟たちとの友情を深めました。では、マルコにどのように倣えるでしょうか。自分のしたい奉仕をなかなかさせてもらえないように感じる時、がっかりして諦めたくなるかもしれません。でも、踏みとどまってエホバと仲間のためにできることができないか探ししましょう。今、長老として奉仕している勝佑兄弟のことを考えてみましょう。兄弟は若い頃、同年代の兄弟と自分を比べがちでした。長老からいろいろな仕事を任せられている人たちがいる中で、自分にはそういうチャンスが与えられていないと感じました。それで、その気持ちを長老たちに打ち明けることにしました。ある長老からは、「周りには気付かれないとても、人のために自分にできることをしてみたら？」とアドバイスされました。その言葉にはっとした勝佑兄弟は、集会に来るための交通手段がない仲間や、高齢の仲間を助けてあげることにしました。兄弟は振り返ってこう言っています。「人のために働くとはどういうことがもっとよく分かりました。困っている人を助けると、自分もうれしくなります」。

若い兄弟は年長の兄弟たちと時間を過ごすと、たくさんのこと学ぶ。

(7節を参照。)



## テモテは仲間に優しく寄り添った

8. パウロがテモテに旅に同行してもらいたいと思ったのはどうしてですか。 (フィリピ 2:19-22)

8 パウロは、以前に迫害に遭った町に戻って伝道することにしました。それで勇敢な旅仲間を必要としていました。パウロが最初に選んだのは、何年もエホバに仕えてきたシラスでした。 (使徒 15:22) そこで、使徒や長老たちは会衆全体と共に、自分たちの中から選んだ人たちをパウロとバルナバと一緒にアンティオキアに遣わすことに決めた。バルサバと呼ばれるユダとシラスであり、兄弟たちの中で大きな責任を担っている人たちだった。40 パウロはシラスを選び、出発した。出掛ける前に、兄弟たちは、パウロがエホバの惜しみない親切を受けるようにと祈った。) その後、パウロはテモテを選び、旅に同行してもらうことにします。パウロがテモテに一緒に来てほしいと思ったのはどうしてでしょうか。まず、テモテの良い評判を聞いていたからです。 (使徒 16:1, 2) パウロはデルベに、次いでルステラに着いた。そこにテモテという弟子がいた。信者であるユダヤ人女性の息子で、ギリシャ人の父親を持ち、2 ルステラとイコニオムの兄弟たちから良い評判を得ていた。) また、テモテは仲間を心から気遣う人でもありました。 (フィリピ 2:19-22) 主イエスが望むなら、私はテモテを間もなくそちらに遣わしたいと思っています。皆さんの様子を聞いて励みを得たいのです。 20 テモテほど皆さんのこと心から気遣える人は、ほかにいません。 21 他の人は皆、自分のことばかり考え、イエス・キリストのことを考えていません。 22 一方、皆さんも知っている通り、テモテはこれまで立派にやってきました。父兄と一緒に働く子供のように、私と一緒に一生懸命良い知らせを広めてきました。) を読む。)

9. テモテが本当に仲間を思う人だったということは、どんなことから分かりますか。

9 パウロと一緒に伝道を始めた頃から、テモテは自分よりも仲間を大切にしていました。それで、パウロはベレアの新しくクリスチヤンになった仲間を力づけるため、テモテをそこに残すことにしました。テモテなら大丈夫だと思ってのことです。 (使徒 17:13, 14) しかし、テサロニケのユダヤ人たちは、神の言葉がパウロによってベレアでも広められていることを知ると、群衆を駆り立てて騒がせようとしてやって來た。 14 それで、兄弟たちはすぐにパウロを港へと送り出した。しかしシラスとテモテはとどまつた。) テモテは、一緒にベレアに残ったシラスからたくさんのこと学んだに違いありません。その後、パウロはテモテを今度は1人でテサロニケに遣わしました。テサロニケの兄弟姉妹を元気づけるためです。 (テサ一 3:2) テモテを遣わしました。テモテは私たちの兄弟であり、キリストについての良い知らせを伝える、神の奉仕者(if\*神と共に働く者)です。彼を遣わしたのは、皆さんの信仰が強くなるよう、皆さんを力づけ、慰めるためです。) その後の15年ほどにわたって、テモテはいろいろな経験を通してますます愛情深く優しい人になりました。「泣く人と一緒に泣[く]」ようにというパウロの言葉の通り、苦しんでいる仲間に温かく寄り添いました。 (ロマ 12:15) 喜ぶ人と一緒に喜び、泣く人と一緒に泣きましょう。

テモニ 1:4 あなたの涙を覚えていて、あなたに会って喜びに満たされたいと強く願っています。) では、若い兄弟たちはどうすればテモテのような人になれるでしょうか。

10. 佑在兄弟が仲間の一人一人に关心を向けられるようになったのはどうしてですか。

10 佑在兄弟は仲間を優しく思いやることの大切さを学びました。兄弟は若い頃、年配の兄弟姉妹と話すのが苦手でした。集会の時もあいさつぐらいしかできませんでした。その様子を見ていたある長老が「兄弟姉妹のどんなところに感謝しているかを伝えると、もっと会話が弾むよ」とアドバイスしてくれました。さらに、相手がどんなことに興味を持っているか考えることもできる、と教えてくれました。佑在兄弟は言われた通り、仲間の様子に気を配り、もっと关心を持つようにしました。兄弟は今では長老として奉仕しています。こう言っています。「いろいろな年齢層の仲間と打ち解けた会話ができるようになりました。兄弟姉妹が気掛かりなことを話してくれるとき、うれしくなります。どうやって助ければいいか分かるからです」。

11. 仲間にもっと关心を持ち、もっと好きになるために、若い兄弟にはどんなことができますか。（写真も参照。）

11 若い兄弟たちも人にもっと关心を持ち、人をもっと好きになることができます。集会の時、いろいろな年代の人、自分とはタイプの違う人にも目を向けるようにしましょう。最近の様子を尋ね、じっくり話を聞いてください。そうすると、困っていることや助けてもらいたいと思っていることが分かるようになります。例えば、JW Library®の使い方を教えてほしいと思っている年配の人がいるかもしれません。一緒に伝道する相手が欲しいと思っている人もいるでしょう。あなたがそういう人たちを助けてあげられますか。自分の方から進んで仲間をサポートするなら、会衆のみんなにとって良い手本になれます。



若い兄弟が会衆の仲間のためにできることはいろいろある。（11節を参照。）

## 親心のあふれたパウロのアドバイスから学ぶ

12. 若い兄弟たちはパウロのアドバイスを役立てるために何ができますか。

12 パウロは、テモテが幸せに生きていき、心を込めてエホバへの奉仕を続けられるよう、良いアドバイスをしました。（テモニ 1:18 愛する(d\*私の子)テモテ、あなたについて語られた幾つかの預言に基づいて、こうした指示(\*命令)を与えます。その預言に従って立派に戦い。テモニ 4:5 しかしあなたは、どんな場合にも頭がさえた状態(\*鋭敏な感覚/冷静さ)を保ち、苦しみに耐え、福音

伝道者として働き(\*良い知らせを伝え続け), 自分の奉仕を十分に行いなさい。) 親心のあふれたパウロのアドバイスは、今の若い兄弟たちのためにもなります。そのアドバイスから学ぶためにどんなことができますか。パウロがテモテに宛てて書いた2通の手紙を、自分に宛てられた手紙であるかのように真剣に読むことです。そして、パウロのアドバイスをどうすれば実践できるか考えます。では、そのアドバイスを幾つか見てみましょう。

13. エホバから離れたくないという気持ちを強くするには、どんなことが必要ですか。

13 「神への専心をいつも示せるように自分を訓練しなさい」。(←[テモ一 4:7](#), 後半) 神への専心とは何でしょうか。エホバから絶対に離れたくない、いつもエホバの喜ぶことをしたい、という気持ちのことです。とはいえ、私たちはそういう気持ちを生まれつき持っているわけではないので、努力しなければいけません。ここでパウロが使っている「自分を訓練しなさい」という言葉からそれが分かります。この言葉は、競技会に備えて厳しいトレーニングをするスポーツ選手の様子を指してよく使われました。そういうスポーツ選手は、強い意志を持って自分をコントロールする必要があります。私たちもエホバともっと親しくなるための良い習慣を身に付けるには、強い意志を持って取り組むことが大切です。

14. どんなことを目指して聖書を読むことが大切ですか。

14 そういう良い習慣の1つは聖書を毎日読むことです。聖書を読む時は、エホバともっと親しくなることが目標だということを忘れないようにしましょう。例えば、イエスと若くて裕福な男性のやりとりから、エホバについて何が学べるでしょうか。 ([マル 10:17-22](#) イエスが進んでいくと、ある男性が走ってきてひざまずき、こう質問した。「善い先生、永遠の命を受けるには何をしなければなりませんか」。 18 イエスは言った。「なぜ私のことを善いと呼ぶのですか。神以外に善い者は誰もいません。 19 あなたはおきてを知っています。『殺人をしてはいけない。姦淫をしてはいけない。盗んではいけない。偽りの証言をしてはいけない。だまし取ってはいけない。父と母を敬いなさい』」。 20 その男性は言った。「先生、その全てを子供の時から守ってきました」。 21 イエスはその男性を見つめ、愛を抱いて言った。「あなたには1つのことが欠けています。行って、持っている物を全て売り、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、天に宝を持つようになります。それから来て、私の弟子になり(\*私の後に従い)なさい」。 22 しかし、男性はこれを聞いて悲しくなり、悲嘆しながら去っていった。多くの資産を持っていたからである。) その男性はイエスがメシアだということを信じていましたが、弟子になるほどの信仰は持っていました。それでも「イエスはその男性[に]愛を抱」き、何をすればいいか優しく教えました。良い選択をしてほしいと願っていたからです。心が広く温かいイエスに引かれませんか。イエスが優しい接し方をしたのは、その男性をエホバと同じように愛していたからです。 ([ヨハ 14:9](#) イエスは言った。「こんなに長い間一緒に過ごしてきたのに、フィリポ、あなたはまだ私を知らないのですか。私を見た人は、父をも見たのです。どうして、『父を見せてください』と言うのですか。) この記述を読みながら、自分に次のように問い合わせてみましょう。「エホバと同じような考え方をするにはどうしたらいいだろう。どうすれば自分ももっとほかの人の役に立てるだろうか」。

15. 若い兄弟たちが良い手本になることが大切なのはどうしてですか。 (テモテ第一 4:12, 13)

15 「忠実な人たちの手本となってください」。 (テモテ第一 4:12, 13) あなたが若いからといって、誰にも見下されないようにしなさい。かえって、言葉や振る舞い、また愛、信仰、清さ(\*貞潔さ)の点で、忠実な人たちの手本となってください。 13 私がそちらに行くまで、朗読と説き勧め(\*励ます)ことと教えることに励んでください。を読む。) パウロはテモテに、朗読や教えることといったスキルを伸ばすだけでなく、愛や信仰や清さなど自分の内面を磨くようにと勧めました。パウロがそう勧めたのはどうしてでしょうか。口で言うだけでなく、良い手本になることが大切だからです。例えば集会で、一生懸命伝道しましょうというテーマで話をするとします。自分自身がベストを尽くして伝道しているなら、自信を持って話せるはずです。あなたの手本には言葉以上の力があります。 (テモ一 3:13 立派に奉仕する人は良い評価を得、キリスト・イエスへの信仰について少しも気後れせずに語ることができます。)

16. (ア) 若い兄弟たちはどんな5つの分野で手本になれますか。 (イ) 若い兄弟たちはどうすれば「言葉……の点で」手本になれますか。

16 パウロはテモテ第一 4 章 12 節あなたが若いからといって、誰にも見下されないようにしなさい。かえって、言葉や振る舞い、また愛、信仰、清さ(\*貞潔さ)の点で、忠実な人たちの手本となってください。で、若い兄弟たちが手本になれる 5 つの分野を挙げています。一つ一つの分野について掘り下げて調べてみるのはどうでしょうか。例えば、「言葉……の点で」手本になるにはどうしたらいいでしょうか。周りの人を元気づけるためにどんなことを話せるか、考えてみましょう。親と一緒に暮らしているなら、してくれていることへの感謝をもつと言葉で伝えられるでしょうか。集会の時、話や実演をした人に、どんなところがいいと思ったかを伝えられますか。自分の言葉で心からコメントすることもできます。そうやって言葉で人を元気づけるよう努力するなら、あなたがクリスチヤンとして成長していることが周りにもはっきり伝わります。 (テモ一 4:15 これらのことについてよく考え(\*黙想し), 打ち込みなさい。そうすれば、あなたの進歩は誰の目にも明らかになるでしょう。)

17. エホバにもっと奉仕するためにどんなことができますか。 (テモテ第二 2:22)

17 「若い時に抱きがちな欲望から逃れ、……正しさ……を追い求めなさい」。 (テモテ第二 2:22) ですから、若い時に抱きがちな欲望から逃れ、清い心で主に頼る人たちと共に、正しさと信仰と愛と平和を追い求めなさい。を読む。) パウロはテモテに悪い欲望と闘うように勧めました。そういう欲望に負けると、クリスチヤンとしての成長が止まり、エホバとの関係が壊れてしまう可能性があるからです。悪い欲望をあおるものではなくても、エホバに仕えるための時間を奪うような注意にも注意する必要があります。例えば、スポーツやネットサーフィンやゲームにどれぐらいの時間を使っているでしょうか。その時間をエホバや仲間のために使えるでしょうか。王国会館のメンテナンスやカートの奉仕に参加できますか。そういう機会に、エホバへの奉仕をもっと頑張ろうという気持ちにさせてくれる友達ができるかもしれません。

# 仲間に尽くす生き方は素晴らしい

18. マルコとテモテが充実した人生を送った、といえるのはどうしてですか。

18 マルコもテモテも自分のことを後回しにして仲間に尽くしました。それで2人は充実した素晴らしい人生を送ることができました。（[使徒20:35](#)私は、このように真面目に働いて、弱い人たちを援助しなければならないこと、また、主イエス自身が述べた『受けるより与える方が幸福である』という言葉を覚えておかなければならぬことを、あらゆる点で皆さんに示しました。）マルコは兄弟姉妹を助けるためにいろいろな場所に旅をしました。イエスの生涯と宣教についての臨場感あふれる記録を残すこともしました。テモテはパウロと一緒に会衆を幾つも立ち上げ、兄弟姉妹を力づけました。エホバは、仲間に尽くしたマルコとテモテのことをとても喜んだに違いありません。

19. 若い兄弟たちがパウロのアドバイスを心から受け止めることができるのはどうしてですか。そうするとどんな人生を送りますか。

19 パウロの手紙からはテモテへの温かい愛情が伝わってきます。でも、この手紙にはエホバのあなたへの温かい愛も込められています。それで、エホバがあなたの幸せを願い、パウロを通して与えてくれたアドバイスを心から受け止めてください。仲間のためにもっと働きたいという気持ちを育てていきましょう。そうするなら、今最高の人生を送り、「真の命をしっかり捉えることができ」ます。（[テモ一6:18, 19](#)またその人たちに、善いことをし、立派な行いに励み、惜しみなく与え、進んで分け合うよう伝えてください。19 そうすれば彼らは、いわば宝を蓄え、将来のための良い土台を築いて、真の命をしっかり捉えることができるでしょう。）

## どんなことを学びましたか

### 1. マルコの手本から何を学べますか。

- ・S04-05 パウロが2回目の宣教旅行に連れてていってくれなかつた時マルコは傷つき落ち込んだかもしれないが、兄弟姉妹のために働くのをやめなかつた。マルコはいとこのバルナバと一緒に奉仕し、11年ほど後にはローマで囚人になつてゐたパウロを支えた。
- ・S06 ローマでパウロといくらか時間を過ごした後にバビロンで使徒ペテロと奉仕したり、経験を積んだ立派なクリスチャンと時間を過ごすことから大切なことを学んだ。
- ・S07 自分のしたい奉仕をなかなかさせてもらえないように感じても、がっかりして諦めず、エホバと仲間のためにできることがないか探して、それをできる。

### 2. テモテの人への接し方にどのように倣えますか。

- ・S09 パウロと一緒に伝道を始めた頃から、テモテは自分よりも仲間を大切にしていた。その後の15年ほどにわたつて、テモテはいろいろな経験を通してますます愛情深く優しい人になり、苦しんでゐる仲間に温かく寄り添つた。
- ・S11 若い兄弟たちも人にもっと関心を持ち、人をもっと好きになることができる。自分の方から進んで助けの必要な仲間をサポートするなら、会衆のみんなにとって良い手本になれる。

### 3. 若い兄弟たちが成長していくためにパウロのどんなアドバイスが役立ちますか。

- ・S13-14 「神への専心をいつも示せるように自分を訓練しなさい」。神への専心の気持ちは生まれつき持っているわけではなく、「自分を訓練しなさい」という言葉からも、競技会に備えて厳しいトレーニングをするスポーツ選手のように、強い意志を持って自分をコントロールする必要が分かる。**エホバとともに親しくなるための良い習慣を身に付けるには、強い意志を持って取り組む**ことが大切。その良い習慣の1つは**聖書を毎日読む**こと。聖書を読む時はエホバとともに親しくなることが目標だということを忘れないようとする。
- ・S15-16 「忠実な人たちの手本となってください」。パウロはテモテに、朗読や教えることといったスキルを伸ばすだけでなく、**愛や信仰や清さなど自分の内面を磨く**ようにと勧めた。それは、口で言うだけでなく**良い手本になることが大切**だったため。パウロがテモテ第一4章12節で挙げた**手本になれる言葉、振る舞い、愛、信仰、清さ**という**5つの点**を、一つ一つ掘り下げて調べてみることができる。
- ・S17 「若い時に抱きがちな欲望から逃れ、……正しさ……を追い求めなさい」。パウロはテモテに**悪い欲望と闘う**ように勧めたが、**悪い欲望をあおるものではなくても、エホバに仕えるための時間を奪う**ようなことにも注意する必要がある。例えば、**スポーツやネットサーフィンやゲームに使っている時間をエホバや仲間のために使えるか**考えて調整できる。

### 80番の歌 「エホバが善い神であること」を味わい知る

△ 感情をストレートに表現する人だったペテロは、いろいろな場面でのイエスの気持ちや反応についてマルコに生き生きと話したことでしょう。マルコの福音書にイエスの感情や行動がよく描かれているのは、そのためと思われます。（[マル3:5](#) イエスは憤りを覚えながら見回し、人々の心が無感覚なのを深く悲しんで、男性に言った。「手を伸ばしなさい」。男性がそうすると、手は治った。[:7:34](#) そして、天を見上げて深く息を吐き、「エファタ」、つまり「開かれよ」と言った。[:8:12](#) イエスは深く嘆いて言った。「なぜこの世代はしるしを求めるのですか。はっきり言いますが、この世代にしるしが与えられることはできません。」）

△ 写真や挿絵：マルコがパウロとバルナバの宣教旅行に同行し、身の回りの世話をしている。テモテが会衆を訪問し、兄弟たちを力づけている。

△ [（テモニ4:11）](#) 私と一緒にいるのはルカだけです。マルコを連れてきてください。私の奉仕を支えてくれるからです。

△ （詩110:3） あなたが軍勢を指揮する\*日に、あなたの民は喜んで自分を差し出す。あなたが率いる若者たちは神聖さで光り輝く。夜明けに豊かに生じる露のよう。

または、「あなたの軍隊が集まる」。